



トマトの環境保全型養液栽培

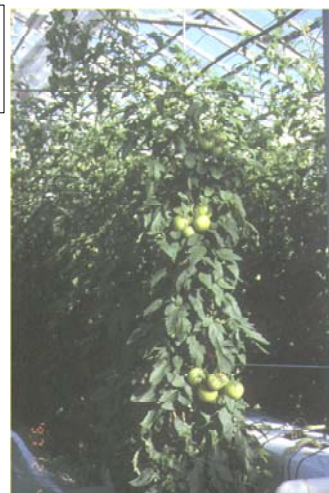
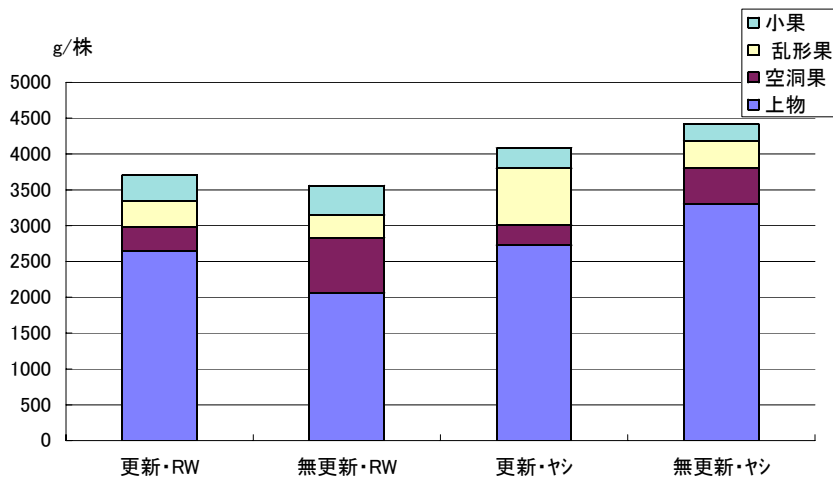
トマトの養液栽培は施設費が安く、栽培が安定しているロックウール栽培が普及しており、徳島県でも約8haの面積があります。しかし、環境保全的にはロックウール栽培では使用済みのロックウールの廃棄や培養液のかけ流しや更新に伴うハウス外への廃液が問題になることが予想され、これらへの対策が求められています。



ロックウールは岩石や鉱さいを高温で溶かし繊維状にしたもので植物の培地として優れた特性を持ちますが、無機質であり、使用後分解しないため廃棄に困ります。



ヤシガラはフィリピン、スリランカ等で生産されている椰子の実から繊維を取り出す過程で生ずるダストからできている有機質培地で、使用後は分解するため廃棄が容易です。



ヤシガラはロックウールに比べ緩衝能が高く、培養液無更新でも組成バランスは比較的安定し、トマトの収量は1カ月に1回培養液を廃棄・更新したものと同等以上になり、培養液の廃棄をなくすることができます。

農業研究所ではヤシガラを用いた環境保全型養液栽培の実用化に取り組んでいます。新しく本栽培法を実践される方は、普及センター、JAとご相談のうえ、下記までご連絡ください。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 野菜園芸担当

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>